

記 入 日 2016 年 1 月 15 日

1. 概 要

実践団体名	名古屋市立工芸高等学校 防災セミナーチーム		
連絡先	052-931-7541		
プランタイトル	つなぐ ～地域、企業、行政、学校の架け橋を目指して～		
プランの対象者※1	小学生、高校生 地域住民、防災関係者 区役所、地元企業	対象とする 災害種別※2	地震

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

- ①生徒、学校の防災・減災に対するスキルアップをはかり、生徒、教員が防災リーダーとして活躍する人材を育成する。
- ②工業と芸術の学校である工芸高校の「ものづくりの技術と特徴」を活かし、地域、企業、行政、各種団体、学校の連携を深める活動に取り組む。

【プランの概要】

- ①防災、減災に対する生徒1人1人と学校のスキルアップを目指す取り組み。
 - ・工業科目「実習」の1テーマに「防災実習」を取り入れる。
 - ・地域や他校が主催する防災訓練に参加する。
 - ・各種セミナー講演会に参加する。
- ②地域、企業、行政、各種団体、学校の連携を目指す取り組み。
 - ・近隣小学校に、防災設備（災害かまどベンチ）を製作する。
 - ・地域ボランティア、防災ボランティアへ参加する。
 - ・工芸高校において地域、企業、行政、各種団体、他校を対象とした1泊2日の宿泊型避難訓練を開催する。
- ③各種イベントに参加し、発表、展示を通じて防災、減災に関する啓発活動を行う。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ・「防災実習」は授業時間内での取り組みであるため、対象学科の生徒は全員受講するため、多くの生徒の防災、減災に対する意識、関心、技術を高めることができる。
- ・地域、企業、行政、各種団体、学校が連携し、共に助け合い協力し合う大切さを学び、地域と共に生きる素晴らしさを体験することができる。
- ・高校生の持つ若い力を地域の力として、防災をはじめ、福祉、教育など様々な地域活動に取り組み、地域力の向上に貢献することができる。

2. プランの年間活動記録 (2015 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	今年度活動計画の検討 ○防災実習 実習場所選定	活動計画決定 シラバス作成、実習準備	年間計画、各種団体との連絡調整 1 年生 3 時間×6 回の実習を実施 2 年生 2 時間×6 回の実習を実施 3 年生 2 時間×8 回の実習を実施
5 月	○スキルアップ、地域 連携	水災害勉強会	5/31 東区総合水防訓練参加
6 月	○スキルアップ	ユニバーサルデザイン勉強会	避難者に解りやすい校内案内地図製作、設置
7 月	○成果発表 ○スキルアップ	資料制作、プレゼン制作 名古屋高校宿泊訓練前合同会議	7/11-12 第 25 回工業技術教育全国研究大会 (拓殖大学) 7/18-19 名古屋高校宿泊訓練参加
8 月	○地域連携 ○地域連携 ○スキルアップ・成果 発表	かまどベンチ製作練習 プレゼン制作	8/3-7 名古屋市立矢田小学校に災害かまどベンチ設置 8/21 キッズ防災フェスタ ボランティアスタッフ 8/25 愛知県高大連携事業高校生防災セミナー参加
9 月	○スキルアップ、地域 連携	福祉避難スペース勉強会	9/6 東区総合防災訓練参加
10 月	○地域連携 ○啓発活動 起震車、煙道の依頼 実施場所選定 ○スキルアップ ○啓発活動 ○啓発活動	防災グッズ勉強会 啓発パネル製作 防災ブース運営計画活動 紹介パネル製作 啓発パネル製作 撮影用防災ブース設営 リハーサル	10/17 なごやかまつり・ひがし防災ブース ボランティアスタッフ 10/23-24 工芸高校文化祭 防災ブース設営 (起震車、煙道体験 126 名) 10/31-11/1 矢田学区宿泊訓練参加 10/21-22 建設技術フェア in 中部 パネル 展示 10/25 NHKほっとイブニング放映 (生中継)
11 月	○地域連携、スキルアップ、啓発活動 協力企業打合せ 東区役所打合せ 地区打合せ ○スキルアップ 校内関係部署打ち合わせ	宿泊訓練計画、立案 ワークショップ準備 訓練計画、立案	11/6-7 工芸高校宿泊型避難訓練開催 校内防災訓練「いきなり避難訓練」 (学校行事の予定で未実施)
12 月	○スキルアップ、成果 発表 ○スキルアップ、成果 発表	プレゼン制作 プレゼン制作	12/23 東区ボランティア連絡会交流会参加 12/25 愛知県高大連携事業高校生防災セミナー参加
1 月	○成果発表	資料制作、プレゼン制作	1/31 まちサポエキシビジョン (東区役所)
2 月	○啓発活動	パネル製作	2/1 高校生による科学の祭典 パネル 展示
3 月	今年度の活動を振り返って	今年度の反省と展望	来年度活動計画

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1 】※3

タイトル	防災実習
実施月日（曜日）	通年
実施場所	工芸高校 都市システム科 実習室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当 氏 名：本校職員 所属・役職等：都市システム科
所要時間または「コマ数×単位時間」	1年生（3時間×6回） 2年生（2時間×6回） 3年生（2時間×8回）
プログラムのカテゴリ、形式※4	5 教科学習
活動目的※5	10 その他（ものづくりを通じた防災教育）
達成目標	「限られた材料で、必要なものをつくる力」「自分の思いを相手に適切に伝える力」「地域と連携し、協力する力」を身に付け、適切な判断と行動をとる知識と技術を習得することを目的とする。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>1年生（3時間×6回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、防災講話（東区役所防災担当者より） 2. 調べ学習（災害の種類、歴史など） 3. 液状化実験、紙ぶるる 4. CROSS ROAD 5. 校外見学（大曽根雨水調整池見学） 6. まとめ、発表、討論 <p>2年生（2時間×6回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. CROSS ROAD 3. 校内危険箇所、安全箇所の検証 4. 校内ハザードマップの作成 5. 校内ハザードマップの作成、まとめ 6. 発表、討論 <p>3年生（2時間×8回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. CROSS ROAD、簡易トイレ・間仕切り組立 2. 避難所HUG① 3. 避難所HUG② 4～7. 防災総合実習 8. まとめ、発表、討論





準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	東区役所総務課防災担当職員（防災講話） 名古屋市上下水道局大曾根雨水調整池担当職員（現場見学） セメント、細骨材、粗骨材、コンクリートブロック、レンガ、鉄筋、結束線、単管パイプ、ブルーシート、ダンボール、ケント紙、付箋、マジック、虫除けスプレー、避難所用簡易トイレ、避難所用簡易間仕切り、CROSS ROAD、避難所HUG、紙ぶるる、都市システム科実習機械、各種工具
参加人数	1年生40名 2年生40名 3年生40名 合計120名
経費の総額・内訳概要	セメント、コンクリートブロック、レンガ等消耗品費 約10000円
成果と課題	<p>【成果】「命の大切さ」、「災害の実情」、「災害の心得」など災害時に適切な判断と行動をとるための、知識と技術を身につける必要性を学ぶ事が出来た。また、日々の生活において、災害に対する危機感を持って生活できるようになった。</p> <p>【課題】防災に関する知識、技術力の向上。与えられた課題をこなすだけでなく、自ら考え行動できる生徒を育成する事。</p>
成果物	実習報告書、実習作品

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	生徒1人1人と学校のスキルアップを目指して
実施月日（曜日）	通年（関係団体の防災イベント実施日）
実施場所	関係団体の防災イベント開催場所
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：関係団体担当者 所属・役職等：名古屋ひがし防災ボランティアネットワーク、東区ボランティア連絡会、名古屋市東区役所、名古屋市社会福祉協議会、名古屋中学校・高等学校防災減災チーム、愛知県高校生防災セミナー
所要時間または「コマ数×単位時間」	関係団体の防災イベント開催時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事 2 講習会・学習会・ワークショップ 16 避難・防災訓練
活動目的※5	6 防災に関する知識を深める
達成目標	関係団体の防災に関するイベントに参加し、防災減災に関する知識、技術を身につけ、1人1人の防災減災に関するスキルアップを目的とする。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<p>東区ボランティア連絡会に「工芸高校防災チーム」として入会した。 東区ボランティア連絡会会長より多くの団体やイベントを紹介していただき防災チームとして参加した。 関係団体の会長、役員の方々と打ち合わせを行い、イベント参加に必要な知識を防災チーム定例会議で学んでからイベントに参加した。</p> <p>○東区総合水防訓練参加（5月31日）</p>  <p>○名古屋高校宿泊訓練参加（7月18日-19日）</p>  <p>○愛知県高大連携事業高校生防災セミナー参加（8月25日、12月25日）</p> 



	<p>○東区総合防災訓練参加 (9月6日)</p>  <p>○矢田学区宿泊訓練参加 (10月31日-11月1日)</p>  <p>○東区ボランティア連絡会交流会参加 (12月23日)</p> 
<p>準備、使用したもの</p>	<p>軍手、コンクリートブロック</p>
<p>参加人数</p>	<p>各イベント参加人数 合計 53名参加。</p>
<p>経費の総額・内訳概要</p>	<p>軍手、木材、たわし、洗剤、コンクリートブロック 合計 7079円 防災チームユニホーム (ポロシャツ) 20着 47420円。 パネル、ロール紙、トナー等消耗品 約 10000円 生徒参加交通費は工芸高校より支給。</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】地域、高校、行政が主催するイベントに参加し、防災、減災に関する知識、技術を身につける事が出来た。また、地域の方々と共に協働して取り組む事が出来た。 【課題】参加したメンバーが、防災チームを中心とした特定のメンバーとなってしまった。次年度は広報活動を充実させ多くの生徒、教員が参加できるように努める。</p>
<p>成果物</p>	<p>各イベントの参加体験パネル</p>

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3】※3

タイトル	地域、企業、役所、学校の架け橋を目指して
実施月日（曜日）	通年（関係団体の防災イベント実施日）
実施場所	関係団体の防災イベント開催場所
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：関係団体担当者 所属・役職等：名古屋ひがし防災ボランティアネットワーク、東区ボランティア連絡会、災害ボランティアコーディネーターなごや、名古屋市東区役所、名古屋市社会福祉協議会、工芸高等学校
所要時間または「コマ数×単位時間」	関係団体の防災イベント開催時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事 16 避難・防災訓練
活動目的※5	3 災害に強い地域を作る
達成目標	地域、企業、役所、学校の連携を深め、各団体の架け橋を目指して活動を行う事を目的とする
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<p>○名古屋市立矢田小学校に災害かまどベンチを設置（8月3日-7日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢田学区、矢田小学校と設置場所、形状、工程等の打ち合わせを行った。 ・製作したかまどベンチは、矢田学区宿泊訓練等で活用されている。 ・今後要請があれば、メンテナンスも随時行う予定である。  <p>○キッズ防災フェスタ ボランティアスタッフ（8月21日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東区社会福祉協議会と内容、人員等の打ち合わせを行った。  <p>○なごやかまつり・ひがし 防災ブース ボランティアスタッフ（10月17日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋ひがし防災ボランティアネットワーク会長と打ち合わせを行った。 ・まつり当日、名古屋ひがし防災ボランティアネットワークの方々と共に防災ブースにて防災啓発活動に取り組んだ。 <p>○工芸高校宿泊型避難訓練開催（11月6日-7日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工芸高校の地元学区である東白壁学区長と宿泊型避難訓練開催の打ち合わせを行った。 ・地元企業へ宿泊型避難訓練開催に向けて協力を要請し、協力していただく約束を頂く。 <p>敷島製パン株式会社（2日目朝食用の菓子パン） 株式会社眞照（防災グッズ展示、ダンボールパーテーション体験）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・東区役所総務課防災係と打ち合わせを行う。 ・工芸高校職員会議等で本校職員に協力を要請する。 ・関係団体に要項を配布し参加依頼を出した。 
準備、使用したもの <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材 ・ 道具、材料等 	<p>関係団体担当者</p> <p>発電機、ガスボンベ、電動ノコギリ、薪、木材、レコブリック、くるみ、紙やすり、カッターナイフ、ブルーシート、養生テープ、ガムテープ、上質紙、ケント紙、サランラップ、炊き出し用食材、輪ゴム、簡易トイレ用シート、ロープ、ケミカルライト、洗剤、雑巾</p>
参加人数	<p>○災害かまどベンチ製作 12名 ○キッズ防災フェスタ ボランティアスタッフ 5名 ○なごやかまつり・ひがし 防災ブース ボランティアスタッフ 3名 ○工芸高校宿泊訓練</p> <p>訓練参加人数 112人（地域住民 64人、名古屋高校 11人、企業・行政 7人、工芸高校 30人）、協力企業 2社（敷島製パン株式会社、株式会社眞照）</p>
経費の総額・内訳概要	<p>炊き出し訓練食材、各種材料費、消耗品 合計 73463円 各種消耗品 約 20000円</p>
成果と課題	<p>【成果】防災、減災について地域、企業と共に考え、1つ1つのイベントを成功させる事が出来た。メイン企画である宿泊型避難訓練を終えて、災害に対して、地域、企業、行政、学校が1つになって取り組み、協力する事の大切さを再確認する事が出来た。</p> <p>【課題】宿泊型避難訓練において、ワークショップ等1つ1つのイベントを手厚く企画しすぎたため、地域住民がお客様になってしまい、快適すぎる避難所体験になってしまった。次年度以降は、地域の方々をメインとした企画立案に努める。</p>
成果物	<p>成果報告書、各イベントのパネル、矢田学区より感謝状を頂く。</p>

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 4 】※3

タイトル	啓発活動、成果発表
実施月日（曜日）	通年（関係団体の防災イベント実施日）
実施場所	関係団体の防災イベント開催場所
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：関係団体担当者 所属・役職等：日本工業技術教育学会、名古屋市東区役所、NHK 名古屋、建設技術フェア i n 中部実行委員会、工芸高等学校
所要時間または「コマ数×単位時間」	関係団体の防災イベント開催時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事
活動目的※5	8 防災の意識を高める
達成目標	防災チームの活動を展示、発表し、生徒、学校、地域の方々の防災意識を高めることを目的とする。
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<p>○第25回工業技術教育全国研究大会参加（7月12日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表分科会、テーマについて担当者と打ち合わせを行った。 ・拓殖大学 文京キャンパスにて「そのときどうする？防災教育の取り組みについて」の演題で発表を行った。 <p>○工芸高校文化祭 防災ブース設営（10月23日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市東消防署予防課の担当者と「煙道体験」「起震車体験」について打ち合わせを行った。 ・工芸高校生徒会執行部と防災ブース設営場所、時間、内容について打ち合わせを行った。    <p>○建設技術フェア i n 中部 2015 パネル展示（10月21日-22日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市システム科と展示スペース、内容について打ち合わせを行った。 ・地域連携を中心としたパネルを工芸高校都市システム科ブース内に展示した。 <p>○NHKほっとイブニング出演（10月25日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育チャレンジプランHPを見て興味を持ったNHKアナウンサーからオファーの電話を頂いた。 ・防災チームの活動目的、内容などの取材を受け、TV出演が決定した。 ・NHKアナウンサー、番組制作スタッフと内容、時間、資機材の搬入ルートなどについて打ち合わせを行った。 ・カメラリハーサルを繰り返し、生中継本番を迎えた。   

	<p>○まちサポエキシビジョン防災チーム活動報告 (1月31日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東区役所まちづくり推進室の担当者と打ち合わせを行った。 ・都市システム科ワークショップブースにて防災パネル展示を行う。 <p>○高校生による科学の祭典パネル展示 (2月1日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市科学館担当者とブース内容等について打ち合わせを行った。
準備、使用したもの <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材 ・ 道具、材料等 	<p>関係団体担当者</p> <p>パネル、各種発表用資料、発電機、ガスボンベ、電動ノコギリ、薪、木材、レコブリック、くるみ、紙やすり、カッターナイフ、ブルーシート、養生テープ、ガムテープ、上質紙、ケント紙、サランラップ、炊き出し用食材、輪ゴム、洗剤、雑巾</p>
参加人数	<p>○第25回工業技術教育全国研究大会参加 2名</p> <p>○工芸高校文化祭 防災ブース ブース運営 12名 起震車等体験者 156名</p> <p>○建設技術フェア in 中部 2015 パネル展示 2名</p> <p>○NHKほっとイブニング出演 15名</p> <p>○まちサポエキシビジョン防災チーム活動報告 4名</p> <p>○高校生による科学の祭典パネル展示 4名</p>
経費の総額・内訳概要	<p>各種消耗品 約20000円</p>
成果と課題	<p>【成果】工芸高校防災チームの取り組みを展示、発表することにより、生徒、教員、地域の方々に防災、減災について考え行動するきっかけを作ることができた。</p> <p>【課題】啓発が特定の人たちに偏ってしまっているため、HP等を活用し、より多くの人たちに防災チームの活動内容を知ってもらい、防災意識の高いまちづくりを目指す。</p>
成果物	<p>発表資料、成果パネル</p>

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦労した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦労した点 工夫した点</p>	<p>○防災実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が災害時に、適切な判断ができる知識と行動力を身につけることを目標にシラバスの作成を行ったが、総合学習や特別活動ではなく授業科目「実習」として成立させ、評価することに難しさを感じた。 <p>○地域連携活動（工芸高校主催：宿泊型避難訓練の開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訓練対象、災害想定など、どこまでどのように取り組んだらよいか基本的な計画段階で躓いてしまった。 ・工芸高校が主催であるが、地域と連携し計画段階から進めた。
<p>準備活動で 苦労した点 工夫した点</p>	<p>○防災実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HUG、DIG、クロスロードなどの防災ゲームや防災減災に関する専門の知識技術を持った教員がいなかった。 →他団体の開催するセミナー、訓練に参加し、実習を行うための準備を進めた。 <p>○地域連携活動（工芸高校主催：宿泊型避難訓練の開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いままでの活動で、他団体主催の宿泊訓練や防災訓練参加、合同企画での訓練開催など多くの取り組みを行ってきたが、大規模な訓練を主催者側で企画するのが初めてであるため、地域、企業、校内施設等の調整に予想以上に時間がかかってしまった。
<p>実践に 当たって 苦労した点 工夫した点</p>	<p>○防災実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年次「総合実習」において災害時に避難所となった工芸高校で「避難者に何が必要で自分たちの技術で何ができるのか」を少人数のグループで考える時間を長くとり、企画、立案、発表、製作の順で実習を行った。 <p>○地域連携活動（工芸高校主催：宿泊型避難訓練の開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者を事前登録参加制ではなくフリーにした。 →生徒の友人、部活動を終えてから急遽参加した本校生徒、地域の子供たちなど多くの人たちが参加できる体制がとれた。 ・参加人数が想定を超えてしまい、炊き出し訓練で計画通り進めることができなかった。 <p>○各種イベント、ボランティア参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災チーム以外の生徒、教員の参加を増やすための取り組み（ポスター掲示、集会等で呼びかけ）がマンネリ化してしまった。 ・各団体の防災訓練に数多く参加し、防災チームの生徒教職員とともに、災害時どのように地域と共に取り組むか、どのように考え行動するかを身に付けることができた。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	①名古屋市立矢田小学校 ②名古屋中学校高等学校 ③名古屋大学	①災害かまどベンチ製作 ②宿泊訓練開催（防災チームが参加） 合同防災減災勉強会 ③高大連携事業高校生防災セミナー（工芸高校防災チームが参加）
保護者・ PTAの組織	①名古屋市立工芸高等学校 PTA	①文化祭防災ブースに参加
地域組織	①名古屋市東区矢田学区 ②名古屋市東区東白壁学区	①宿泊訓練開催（防災チームが参加） ②宿泊訓練参加（工芸高校宿泊訓練に参加）
国・地方公共団体・ 公共施設	①名古屋市東区役所 ②名古屋市消防局 ③国土交通省中部地方整備局 ④名古屋市東区社会福祉協議会	①防災実習講話講師 防災活動助言、指導 工芸高校宿泊訓練毛布貸し出し、段ボール貸し出し、水提供 各種イベント開催（工芸高校防災チームが参加） ②起震車、煙道貸し出し ③建設技術フェア（工芸高校防災チームが参加） ④防災ボランティア（工芸高校防災チームが参加）
企業・ 産業関連の組合等	①敷島製パン株式会社 ②株式会社眞照	①工芸高校宿泊訓練朝食用パンの提供 ②防災活動助言 工芸高校宿泊訓練防災グッズブース開設
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	①東区ボランティア連絡会（東ほっとねっと） ②名古屋ひがし防災ボランティアネットワーク ③災害ボランティアコーディネーターなごや	①②防災活動助言 各種イベント開催（工芸高校防災チームが参加） ③工芸高校宿泊訓練講話講師 防災活動助言
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	①日本工業技術教育学会	①第25回工業技術教育全国研究大会（工芸高校防災チームが参加）



6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>○防災実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災実習を通して、災害について学ぶことにより自然災害は、「いつでも」「どこでも」「誰にでも」起こりうる問題として考えることができるようになった。 ・工芸高校都市システム科で学んでいる土木技術が、自然災害に強い「まちづくり」に欠かすことのできない技術であることを再認識することができた。 <p>○各種イベント、ボランティア参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市東区の総合防災訓練など大規模な訓練に多数参加し、福祉避難スペース、災害ボランティアの振り分け法、ボランティアの心得など、防災に関する知識や技術など多くの事柄を身につけることができた。 ・防災訓練、各種イベントに参加したことにより、地域の方々や様々な団体と友好な関係を作ることができた。高校生を持つ若い力を地域の力として、防災をはじめ、福祉、教育など様々な地域活動に取り組み、地域力の向上に貢献することができた。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>○防災実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市システム科防災実習を終えて「命の大切さ」「災害の実情」を知ることができた。 ・今回の実習内容は自然災害発生後の行動についての取り組みであった。生徒の意識をより一層高めるために、来年度以降の実習において、発生前の行動についてや災害発生メカニズムなど未着手な部分に取り組んでいく必要がある。 <p>○地域連携活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒達は、多くのイベントを企画し、地域、企業と共に考え、1つ1つのイベントを成功させる事が出来た。メイン企画である宿泊型避難訓練を終えて、災害に対して、地域、企業、行政、学校が1つになって取り組み、協力する事の大切さを再確認する事が出来た。 ・工芸高校防災チームのメンバー、関係教職員以外の人たちの防災に関する興味関心を高めることができなかった。次年度は校内の普及活動にも力を入れて努めたい。 <p>○1年間の防災減災活動を通して、工芸高校と工芸高校防災チームのメンバーは大きくスキルアップすることができたと確信している。また、テーマにも掲げている、地域、企業、行政、学校の連携も深める事が出来た。</p> <p>今後は、この取り組みを工芸高校だけの取り組みではなく、地域、地元の小中学校、名古屋市立高校全体へと広げていく活動に取り組んでいかななくてはならないと考える。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>今後もこの取り組みを継続、発展させるために、以下の4点を課題にし、今後の活動に取り組むたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ものづくり(工業系、芸術系)を通して、より多くの生徒、教員の防災、減災に対する意識、関心、技術、知識を高める。 ②地域、企業、行政、学校との連携を発展させ、防災、減災に関する意識、技術の高いまちづくりを目指す。 ③防災イベントを通じて、他団体と防災に対する考え方や意識の調整を行い、各団体の相互理解を深める。 ④工芸高校の特色ある防災・減災活動を継続的に行うために、校内外の連携を深める。

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

○宿泊型避難訓練を終えて

【地域住民の方々のアンケートより】

- ・宿泊型避難訓練に初めて参加しました。床の上で寝る事、毛布1枚で過ごすことの過酷さを体験できる良い機会になりました。(70代男性)
- ・近くに住んでいたのに初めて工芸高校の中に入りました。校舎が入り組んでいて案内地図も無くどこに何があるのか解りませんでした。(40代女性)
- ・毛布、段ボール、明かり、食事など至れり尽くせりであった。ありがたいが訓練にはならない。(60代男性)
- ・このような宿泊訓練に初めて参加してみて、実際に避難するとき何が必要なのかを考えることができた。(10代女性 他校高校生)
- ・工芸高校の生徒さんたちは一生懸命動いてくれて大変ありがたかったが、もっと地域の方々に仕事をさせればよい。(60代男性)

など貴重な意見をたくさんいただきました。これらの意見を参考に、早い段階から地域の方々と打ち合わせを重ね、次年度はより良い訓練にしたいと考えています。

○工芸高校宿泊型避難訓練開催(11月6日-7日)の様子を写真で紹介します。

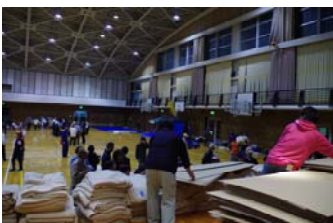
【準備】敷島製パン、東区役所より物資搬入



【受付】17:30 受付スタート



【物資配布・宿泊所作成】毛布、段ボール、水を配布し、簡易更衣室、簡易トイレ等を設置。

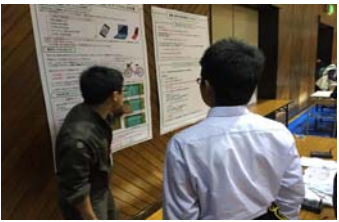


(自由記述: 1/3)

【炊き出し訓練】災害かまどベンチでカレーライスの炊き出し。ケント紙を折り、ラップを引いて皿を作成した。



【ワークショップ①】ものづくりを中心とした防災ワークショップ。メニューは、My箸を作ろう。簡易ベッドを作ろう。発電体験。段ボールパーテーション組み立て。防災グッズ紹介。



【就寝】22:30 就寝。(写真は朝のものです)

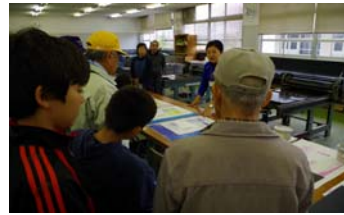


【朝食 支援物資配布】菓子パン2個、水1本。



(自由記述: 2/3)

【ワークショップ②】 工芸高校備蓄倉庫見学。災害時活用できる機器、技術を中心に工業科実習棟見学。



【まとめの挨拶】 災害ボランティアコーディネーターなごやの方より



参加人数

地域住民：64人 名古屋高校：11人

企業・行政：7人 工芸高校：30人

(自由記述： 3/3)